

■H30.10.1 市長定例記者会見内容

日時 平成30年10月1日（月）午前11時～

場所 庁議室

出席 酒田市／市長、副市長、危機管理監、企画部長、企画調整課長、地域創生部長、国際交流主幹、農林水産部長、市長公室長
酒田記者クラブ／山形新聞社、荘内日報、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、河北新報、Y T S

1 開 会

(1) 発表事項

1. 酒田市の各表彰制度 平成30年度表彰者について（市長公室）

市長／今回の表彰制度の概要は、条例に基づく功労表彰、規則に基づく市民表彰、酒田市農業賞、庄内文化賞、阿部次郎文化賞の5つの表彰事項。功労表彰はこれまで市政の発展に尽くされた、功労が特に顕著である方に差し上げている。市民表彰に関しては、公共的活動に尽くされた篤業者、農業賞に関しては農業振興に貢献いただいた方、庄内文化賞に関しては庄内一円が対象になるが文化振興に功績のあった方、阿部次郎文化賞は酒田市が生んだ偉大な哲学者 阿部次郎氏の偉業にちなみ、研究・哲学部門で著しい成果を上げた方に受賞して頂いている。

功労表彰については、工藤幸治氏 79歳文化・芸術興隆、前田直己氏 73歳産業振興・篤行、栗谷義樹氏 72歳保健・衛生、土門宏樹 65歳保健・衛生。

工藤幸治氏については、市芸術文化協会会長を務められたこともあり、本市の芸術文化振興に多大な貢献をされた。前田氏に関しては酒田「小さな親切」の会も含め、福祉的な活動、ボランティア活動等に力添えいただいている。栗谷義樹氏に関しては山形県・酒田市病院機構理事長として、また医師会の会長として地域の医療の発展に貢献いただいている。土門宏樹氏に関しては、歯科医師会の会長として、山形県歯科医師会の副会長としても大きな貢献を頂いている。特に県の歯と口腔に関する条例の制定についても貢献いただいている。

市民表彰に関して、故阿部幸夫氏は今年4月に亡くなられた。県の対岸貿易アドバイザーとして本市にもさまざまなご指導を頂いた。とりわけジェレズノゴルスク・イリムスキー市との交流や、昨年実現したサンクトペテルブルク市との交流は阿部氏無くしては実現できなかった。亡くなった事は残念だが、阿部氏の功績については称えたいという思いから市民表彰として表彰したい。

また、特定非営利活動法人酒田港女みなと会議は産業振興の面から市民表彰を贈らせていただく。昨年ポート・オブ・ザ・イヤーを受賞したが、その土台作り、評価を頂くきっかけになる活動を取り組んでいただいた。これからも酒田港の発展を支えて頂ければ。

農業賞はいずれも農協あるいは農業委員としてご活躍いただいた方。

庄内文化賞は黒森歌舞伎の妻堂連中。全国各地で公演を行っているが、来年はポーランドでの公演の予定をしており、山形県を代表する無形民俗文化財の担い手として庄内文化

賞の受賞にふさわしいと判断した。

阿部次郎文化賞は田中章夫氏。本間美術館の館長を勤め、本市の文化芸術振興に尽力いただいております、阿部次郎文化賞を受賞するにふさわしい地元の文化人と捉えています。

顕彰式については11月6日の午前10時からベルナル酒田で執り行う。

記者／11月1日現在の年齢とのことだが、生年月日を知りたい。

市長公室長／別紙用意する。

記者／団体の代表者の名前が知りたい。また、酒田港女みなと会議は代表者ではなく団体だが、黒森歌舞伎妻堂連中との区別はあるのか。

市長公室長／県内各所にメンバーがおり、資料の写真は立ち上げ段階から尽力されている酒田の方を中心に撮影。フルメンバーではない。会長も山形市の方。今までの実績から酒田の方の頑張りを称えたいということがメインだったのでこういった写真になった。

記者／代表の写真はあるか。

市長公室長／活動している写真はあるが、個人の写真は準備できていない。

2. 「旧割烹小幡」運営予定者の募集について（交流観光課）

市長／「旧割烹小幡」の実施設計を(株)設計・計画高谷時彦事務所に発注をしている。実施設計を完了するにあたり、小幡を運営する方の意向を実施設計に反映をさせるため、運営予定者を公募したい。運営に当たってのポイントは、2021年の春にオープンを予定しており、5年間の経営ということ。また日和山公園の入口に位置するという立地条件を生かし、多くの市民から利用される施設となって欲しい、北前船文化や大正11年に建設された洋館で洋食を提供するなど、市の整備目的に沿った運営予定者を公募したい。資料に記載されている通り、中長期の観光戦略のスローガンを展開するものとし①北前船文化・洋食文化をしっかりと提供できること②日和山のロケーションを生かした産業振興観光振興に寄与する施設であってほしい③市民の憩いの場としての公園であることから、公園の利用者にとっての便益施設であって欲しい、この3点の目的に合った提案をして欲しい。

住所要件については、基本的には事業所を有する方としているが、共同経営体で市内本社の代表者と市外本社の構成員による共同経営での申し込みも可能。提案は広く全国から公募できるような条件設定にしている。

使用料は、サウンディング調査ということで地元の事業者にはアヒアヒをしたところ、冬期間において厳しい経営が強いられることから、月額の上金額の5%の額とし、下限額15万2千円（売上金額304万円）、上限額50万円（売上金額1,000万円）としている。

日和山周辺の中心的施設として運営をしていただき、駅前や山居倉庫周辺、中町を回遊する際に魅力を感じていただけるような施設になればいいと思っている。10月9日に募集説明会を開催し、12月14日まで公募を受け付け。公募を受けて選定委員会を12月下旬に予定している。その後、実施設計を来年4月26日をめどに完成させ、来年9月より工事、2021年春にオープンを予定したいと考えている。

選定委員会は外部委員や女性委員も入れたい。公募された方には一般公開プレゼンに参加していただき、市民の皆さんにもどういう提案があったか見える形で選定作業を進めていきたい。

オープン前になるかと思うが、洋館部分と2階部分は長期独占という形で考えている。1階部分に関しては指定管理という形で同一事業者からやっていただきたい。このことについては契約の時点で議会にはかることになる。また旧割烹小幡が工事完了しオープンするまでには設置管理条例をあげなければいけないので、現時点では運営予定者という形での公募。尚、条例や指定管理の議会の議決に関しては2020年の9月議会を予定。

記者／基本的に洋食を提供する施設ということか

市長／洋館については洋食を提供。和館については、和食を出して頂いてもいい。提案される方の中身をみてみないとわからないが基本的には。

記者／公募は昨年12月の報告会の調査結果に沿わなくてもかまわないのか。

市長／それをベースに再生をさせたい。消防法など制約もある。もともと小幡は飲食店だったため、その範囲で考えていかざるを得ない。

記者／運営に係る市の補助はあるのか。

市長／特に考えていない。一階部分は指定管理になるので一定の指定管理料の支払いはあるが、補助ではない。

記者／一般公開プレゼンと選定委員会の比重は。

市長／選定委員会に決めて頂く。一般公開プレゼンは市民の方に知って頂くため。

記者／洋館については酒田フレンチという認識でいいか。

市長／酒田フレンチも含むという認識。酒田フレンチよりは洋食と幅を広くしたほうが多くの方が手を上げやすいため。

記者／公開プレゼンの予定は。

市長／日にちは決まっていない。

記者／擁壁調査、補修は完了済みか。

地域創生部長／擁壁調査は現在も進行中である。

記者／駐車スペースは確保されるのか。

市長／場所があれば確保したいが具体的には決まっていない。オープンまでの間に用地確保が可能であれば市として確保したい。

記者／小幡の外壁の色について、高谷時彦先生の整備構想では白壁に緑の木枠の割烹小幡本来の外観に戻したいという希望だったが、市民からは今の赤茶けた外観のままがいいという意見も出ている。

市長／白壁に緑の木枠は素敵だし面影を復元したいと思っている。今の赤茶けた色は映画「おくりびと」の葬儀社のイメージ。

記者／運営5年とのことだが、5年以降も新たに募集するのか。

市長／基本的には新たに。5年で切れたら新たに公募。

記者／5年出来なかった場合は。

市長／その時点で公募していくしかない。内部の改装費などがかかるので、新たな事業者の負担が増える。提案者が5年間やっていただけるかどうかも見なければいけない。

記者／公募の周知方法は。

市長／広報、ホームページ、マスコミなど。地元中心に業界に周知する。

記者／基本的に地元で根差した人が対象か。他の自治体だと葛谷図書館など東京の資本が入ることがあるが。

市長／地元以外でもウエルカムでやりたいが、地元を巻き込んで共同企業体という形をとって頂きたい。

記者／今回2021年春オープンという情報が公になるのが初めてだが

市長／いろいろ準備を進めていくとその頃かなと。12月や1月など集客力が無い時にオープンするよりは春先かなということで。施設の整備など時間に余裕を持ってオープンしていただければ。

記者／長年の懸案でもあった事業だが、改めてどういう施設にしたいか。

市長／北前船で賑わった頃の酒田の文化の発信の地、酒田の食の魅力に触れられる施設としてオープンできれば。これからの事業拡大につながるような施設としてオープンさせたい。

3. 新潟県・庄内エリアプレDCシンボル企画 おいしい食の都庄内酒まつりの開催について

市長／10月20日に、新潟県と庄内エリアのプレDCのシンボル企画として、酒まつりを開催する。今年のプレDC、来年の本番、その次のアフターDCと、この3か年庄内に観光客を呼び込む絶好のチャンス。酒の酒田と売り込んでいることから、酒田で酒まつりを開催。県内全53の酒蔵が出る。食とお酒の魅力を発信するイベントとしてやりたい。場所はIWCの試飲会を行った中町モールで開催する。

酒田のラーメンの店のほか、食の都庄内親善大使 太田政宏氏監修の特別料理の販売ブースを設置する。前売り券は1千円。市役所地下売店、酒田小売酒販組合及びその加盟店、庄内総合支庁などで販売しているのでぜひPRして頂きたい。

また、翌日に中町の商店街で行われる「さかた大繁盛ハロウィンまつり」の前夜祭が行われるため、20日、21日酒田の商店街に賑わいが生まれれば良いと思っている。

「さかた大繁盛ハロウィンまつり」はどんしゃんまつりの後継のイベント。合わせてPRをお願いしたい。

記者／庄内の蔵元ではなく山形全域になったのはなぜか。

市長／今年の3月に新潟県の全酒蔵が集まるイベントを体験して、酒田で県内の酒蔵をあつめてやってみたいと思っていた。県庁所在地ではないが、IWCの受賞もあったことから、酒田で県内の蔵元を集めて盛大にやってみたいという思いがあった。酒田だけ、庄内だけとなると規模が小さくなる。実行委員会は県も絡んでいるし、日本一の美酒県やまがたという触れ込みで売ってもいる。この機会に県内の全蔵元をアピールする場として、プ

LED Cのシンボル企画として位置づけしたいと思った。新潟と競った形でやってみたいという思いから企画した。

記者／酒に関しては山形県では酒田がリーダーシップを取っていきたいという思いもあるのか

市長／次の発表にも関係するがIWCで東北銘醸が最優秀蔵元になったこともあり、酒の酒田の面目を果たさなければと思い、こういう仕掛けをした。

4. さかた産業フェア 2018・酒田市農林水産まつり 2018「酒田んめちや市」同時開催のお知らせ

市長／「さかた産業フェア」「酒田市農林水産まつり」を同時に開催する。今年は酒田市国体記念体育館及び周辺特設会場で行うのが前回と変わった点。酒田の秋の風物詩ということでPRをお願いしたい。産業フェア内で酒田ものづくりアワードを表彰している。酒田のものづくりを担って頂いている企業で酒田の発信に貢献されている企業を表彰する制度。今年は東北銘醸(株)、(株)山形飛鳥に差し上げたい。酒田ものづくりアワードは今年で4年目。1回目が(株)本間ゴルフ、2年目が東北日本ハム(株)、3年目昨年が酒田米菓(株)。東北銘醸(株)は今回のIWCのSAKE部門で最優秀酒蔵に輝いたこと、(株)山形飛鳥は船凍イカを大々的にアピールし全国で塩辛などの販売に貢献していただいた。他にさまざまなイベントも企画されているので合わせてPRしてほしい。

記者／ギネスに挑戦とあるが具体的にどんな内容か。

地域創生部長／酒田米菓が主体になって行う。10^{cm}×10^{cm}の中にせんべいで文字を作り並べる。現在ギネス世界記録がない。せんべいで絵を描くのは草加市で記録があるので、当市ではメッセージを作る。

■懇談・フリー質問

記者／今朝の台風の被害状況などあれば

危機管理監／上田コミセンの看板が倒れた程度。農業被害などは時間がかかる。自主避難者は宮野浦コミセン1名、松陵コミセン2名。既に帰宅済み。

以上